

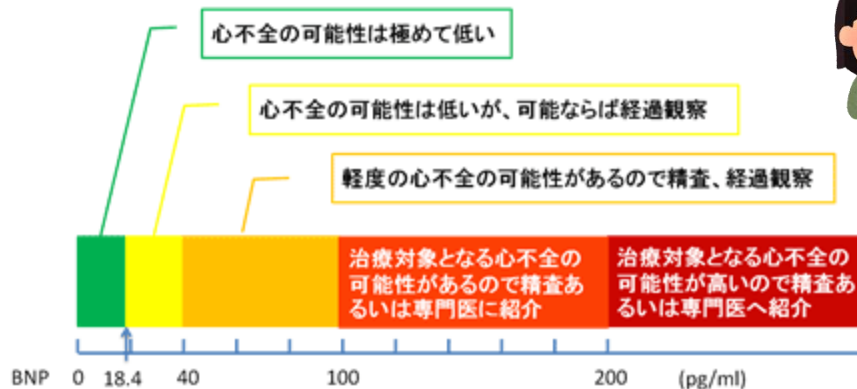
## 日本は超高齢化社会！ 心不全パンデミック

高齢者の増加に伴い、心不全患者が大幅に増加することを、感染症患者の爆発的な広がりになぞらえて「心不全パンデミック」と呼びます。心不全とは、心機能障害を基本とする病態ですが、同時に食欲不振、炎症、インスリン抵抗性、筋肉喪失、貧血などをきたします。また、**栄養障害は、心不全発症のリスクとなること**が多くの疫学研究において示されています。心不全の診断がついた際、低栄養であれば、早期に栄養療法を開始しましょう。

### ○ 心不全の早期診断に必要なバイオマーカー

BNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド）：基準値 18.4pg/ml 以下

【 心不全診断のBNP 閾値 】



一般社団法人 日本心不全学会 HP より抜粋

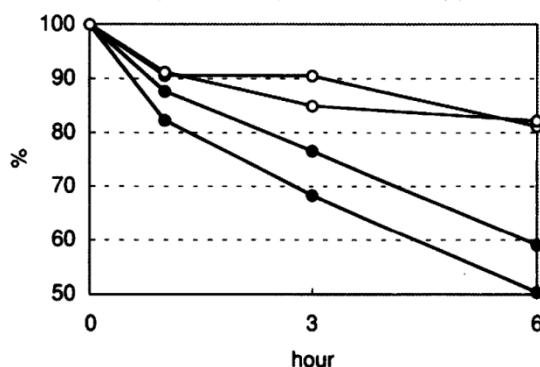
<http://www.asas.or.jp/jhfs/topics/bnp201300403.html>

※ 心不全の可能性が低い場合でも、症状や症候を十分に判断して、必要であれば、胸部X線、心電図、心エコー検査を実施する必要があります。

### ○ 採血後の処理に注意が必要な BNP について

【 採血後の検体保存による血中 BNP 値の変化（2 名分の経時的変化） 】

BNP/青 容器に採血 ●：室温保存 ○：4℃保存



採血後、BNP は試験管内で分解が進みます。特に、室温放置した場合の分解スピードが速いため、BNP 検体は速やかに検査室へ提出してください。

臨床化学 第33巻第3・4号 血中 BNP 測定値に及ぼす検体保存条件の影響 より抜粋

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoc1971b/33/3-4/33\\_187/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoc1971b/33/3-4/33_187/_pdf/-char/ja)

BNP は採血後、試験管内で分解が進みますので、速やかに検査室へ！  
心不全の診断時、低栄養であれば、早期に NST 介入を行いましょう！